

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

さくらそう B 棟

日付 平成 21年 8月 20日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 介護支援専門員経験5年

評価調査員 介護支援専門員経験3年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

津山駅から北へ車で約20分、奥津に向かう国道に面して立つホームは、通行中の誰の目にも留まる田園の中の一つのシンボルである。ホームは2ユニット型で、中央に玄関があり左右同じ造りになっている。3年前に地域の高齢者の増加と独居老人の増加のため地域の役に立ちたいという思いから設立され、開所当時は職員、利用者とも戸惑いを感じていたが、日を増すごとに家族、地域の人々からホームを理解して頂き、信頼関係もできてきている。各ユニットのホールから居室に向かい一直線に廊下が延び見通しが良く、壁には四季折々の折り紙の作品や写真が掲載され明るい雰囲気を感じられる。職員同士が助け合い利用者との信頼関係もでき、利用者同士も同じ町内の人ばかりなので話やすく精神的に安心感も持てるというメリットもある。一年遅れて開所したB棟ユニットの管理者は施設開所から勤務し3年目を向かえ、これまで経験の積み重ねから方向性を掴み、理念に沿ってユニットの目標を職員と検討し取り組んでいる。両ホーム共同で年間の行事を決め、マイクロバスでの買い物ツアーや日帰り旅行、地域の小学生を招いてのクリスマス会、納涼祭等で地域や家族との積極的な交流の促進と利用者が楽しめる運営ができています。

このホームには男性10名、女性8名が暮らしている。利用者は、奥津湖に故郷が沈み周辺地域に移り住んで淋しく暮らしていた人が多く、顔なじみ同士と一緒に生活できる安心感がある。男性利用者に「ここでの暮らしは楽しいですか。」と声掛けると、「何が楽しいというより皆で一緒に居れる事が一番ええわぁ」との返事で安堵感を覚えた。職員はそのところを一番理解し、利用者の思いや不安を十分汲み取り、利用者を尊重し人生の先輩として暖かく見守りここでの生活に満足していただけるように日々努力している。双方の管理者は理念を機会あるごとに伝達し、常に職員が「元気で明るく」をモットーに各ユニットで目標を掲げて努力している。職員間の連帯感も強く、管理者は報告、相談、連絡を行い、職員の不安感を取り除くためにも労を惜みまず働くため、職員からの人望も厚く、利用者や家族からも頼られている。公共施設の少ないこの地域で唯一ADEを設置しているため、講習会の開催等して地域のためにも役立てている。また、子供かけこみ110番を担ったり、地域の文化祭に参加するなど積極的にかかわっていかうと努力している。今年度は、中学生の職場体験や小学校、中学校との交流会など今までできなかったいろいろな事を計画している。

特に改善の余地があると思われる点

個人情報の関係上居室の名札や面会等に至るまで色々配慮しているが、ホームの定期通信のさくらそうだよりを家族と運営推進会議以外にあまり配布していないため、もう少し地域の方にホームの良さを知らせるような方向を検討して欲しい。また、忙しい中で1時間ごとの介護記録を求められていることは、さぞかし大変だろうし、真に利用者の介護の質の向上に繋がるものか疑問もあり、今後行政や他施設との連携で記録のとり方について改善策を検討されることを望みます。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 全体的に見て… 淋しい思いをして入所してきた方々に、このホームで皆で仲良く静かな老後の生活を過ごしていただきたい。そのためには、行動抑制をしない、一人ひとりの思いや希望をできる限り叶えてあげたいと職員が一丸となって取り組んでいる。そのためにも介護現場の職員は常に明るく元気であることが一番と考え、助け合いの精神を養い、働きやすい職場づくりを目指している。行政や地域との連携も大事に考え、A・D・Eの活用や小・中学生との交流を図り、ボランティアの受け入れなどを行っている。</p> <p>2. 自主評価について… ホームの設立時の地域のために役に立ちたいという思いやホームの理念を常に念頭に置き、地域の中で必要とされる開かれた施設として日々努力している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 全体的に見て… 一日の大半を過ごすリビングは台所とカウンターで仕切っており広々している。廊下は車椅子利用者にとって十分な広さがある。南北に開放した窓から田園の風が心地良く入り、扇風機が程よく室内の空気を動かして十分気持ち良かった。空気清浄機、除湿機が完備され、職員は常に「暑い?」と聞きながら温度調整していた。</p> <p>2. 自主評価について… 希望によっては居室を畳敷きにして個々の利用者の生活スタイルを守っている。また、菜園で野菜作りも楽しむことができ、趣味や気分転換を図っている。行動制限せず隣のユニットを訪問し、気分転換や交流をすることも自由である。夫婦の利用者を別々の居室から一つの部屋にしたら落ち着いた生活を取り戻した例もある。利用者が落ち着いた生活できるような工夫を随所で見ることができた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 全体的に見て… 行動を抑制しないことをモットーにしているこのホームでは、私達が訪問している間にも「さあ、皆さんでこれをしましょう。」という場面には出会わなかった。日頃から一人ひとりの思いを十分受け止め、希望があれば何でも受け入れましょうということを日々の方針で対応している。落ち着いた暮らしの中から、洗濯物をたたむ人、植木の水遣り、車椅子で器用なモップを操作する人など自然に生活に定着し、日々の生活行動がハリハピリとなっている。</p> <p>利用者の生活史や趣味なども考慮し、本人の能力の引き出しに努め、時間がかかっても可能な限り自分で行動してもらうよう見守り等を十分できるような業務体制を考慮している。</p> <p>2. 自主評価について… 利用者が入所した時には事前面接や入所後の面会で家族や本人の意向や生活歴、趣味等十分話し合い、更新時や変更時は面会や電話を利用して家族の意向の確認を行い、介護計画書に反映できているが、日々の介護計画書のカンファレンスが無く、定期モニタリングはホーム独自の書式にて行われていたので、是非日々のモニタリングチェックも検討して日々のケアの向上に努力して欲しい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 全体として… 現在要介護度3や車椅子利用者が多いので、個別援助も多く職員のゆとりが心配されるため、職員の休憩時間を設けてゆとりの介護に充てている。職員は常に明るく元気で悩みを持ち越さないように相互理解できるように配慮している。認知症の研修等今後年に1回以上全職員が研修を受け、サービスの質の向上に努めていくように努める。実習生の受け入れは県内の短大や専門学校からの実習生を受けており、職員や利用者も刺激となり向上心も育ってきている。</p> <p>2. 自主評価について… 避難訓練は出来ているが、夜間を想定し地区の消防団とも協力して実施できるように 今後検討して欲しい。施設開所時からの立地条件もあるが、非常口から車椅子や利用者が避難しやすいように段差の解消等も検討して欲しい。今後地域の小・中学生との交流や地域の方との交流、町内の他施設との交流などの計画や実行等にてより良い施設づくりを目指して努力をして欲しい。</p>		